

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400623		
法人名	延寿グループ株式会社		
事業所名	アットホームケア桜木		
所在地	千葉県千葉市若葉区桜木4丁目19-32		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成28年2月24日		

アットホームケア桜木は、2月に三周年を迎えました。利用者様も地域の環境にも慣れてきました。又、1年を通して敷地内の花壇には、四季折々の草花を楽しめるよう植付けに工夫をし、菜園では、じゃが芋、さつま芋、インゲン、ほうれん草、春菊等、野菜の植付けや草取り、日々の成長に興味を持って観察して戴き、収穫も春夏秋冬に楽しんで頂けるよう工夫をしています。1階と2階の利用者様の交流は、月1回の食事会や行事、外出、散歩等を一緒に協同することが定着しています。ホームの理念“心の触れ合う、優しい介護”をモットーに全職員が、入居者の皆さん一人ひとり『楽しく生活して戴く!』を基本に支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当地に移転前の若松及び千城台の事業所から通算すると10年以上の介護歴史があり、ホーム長はじめ経験豊富な職員が多く、定着率も高い。全職員で話し合っ作り上げた理念「心の触れあう優しい介護」を掲げて「利用者の長い人生のお手伝いをする心」で取り組んでいる。ホーム長が職員と築き上げてきた良き職場風土「何でも相談出来るコミュニケーションの良さ」が、利用者・家族との信頼関係を繋がつている。今回のアンケートは保護者全員から回答があり、満足度の高い評価となっている。町内会を始め地域との交流も盛んで、運営推進会議も熱心に討議され地域における高齢者福祉推進の役割も担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、リビング、事務所等、目につく場所に掲示している。 更に、職員の採用時は必ず、理念を伝え理解してもらうようにし、常に理念に基づくケアの実践につなげている。	法人理念と全員で作り上げたホーム独自理念「心の触れあう優しい介護」を玄関、1階2階のユニット毎に掲げている。朝礼やホーム会議で、その都度気になった事例をテーマとして理念が実践されてるかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に入会して、自治会主催の行事に積極的に参加するようにしている。 又、日常の散歩時に挨拶を交わす等、進んで近隣・地域と交流を深められるようにしている。	ホーム長が近隣に住み、自治会長と知り合いであった縁もあるが、自治会に加入し町内とは親しい交流がある。敬老会への参加、散歩の時の住民と楽しい会話、神輿がホームに立ち寄る、畑で収穫したお芋を子ども達に贈って喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元短大の福祉科実習生を受け入れています。又、自治会役員・民生委員様を通じて桜木ホームで「高齢者の介護や認知症」等、オープンで気楽に相談に来て頂くよう、運営推進会議でPRしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の意義や内容、主要な取り組みや毎月の活動報告等を行い、出席者の質問やご意見を拝聴する時間を設け、出席者の皆さんからより良い意見、要望をサービス向上に取り込む心掛けをしています。	自治会の会長、副会長、民生委員、薬剤師、安心ケアセンターと参加者は多く、年4回の定期開催である。運営状況、行事、活動内容まで細かく報告している。認知症に限らず、高齢者福祉についての様々な話合いがあり地域福祉の拠点として受け入れられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや千葉市主催の行事に積極的に参加し、グループホーム連絡会や相談員の困難事例検討会・事業所集団指導等で情報交換を行い、日頃から千葉市担当者との協力関係を築いています。	地域包括支援センター桜木と千城台の2箇所と密接に連携を取っている。運営推進会議に参加いただいたり、訪問するなどして気軽に相談出来る関係がある。千葉市とはグループホーム連絡会や困難事例検討会などの場所で話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については、会議や日々の職務の中で全員が関心を持ち、正しい実践行為を理解するため「身体拘束研修」の受講者を講師に全職員で学習会を行い、知識を深めています。	身体拘束しないケアに取り組み、千葉県主催の研修へ参加して受講後はホーム会議等で報告させている。ホーム年間研修計画の中に身体拘束排除を設定し、日常でも話し合い周知している。利用者は全員で見守り、外出には職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議等を活用して「高齢者の虐待防止」を学習する場を設け、意見交換するようにしています。日頃から、機会ある毎に話合って理解を深め相互注意を奨励し、言動による虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が成年後見制度を活用されていますので、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、機会ある毎に勉強会を行い活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は、利用者様やご家族様に時間を使って十分な説明を行います。殊に、利用料や急変時の対応、介護サービス内容等、理解と納得をして頂くように説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とご家族様、介護相談員様、利用者様の後見人、補佐人様等々のご要望やご意向を把握するよう努め、ホーム会議で日常の運営に反映できるよう話し合い、全職員で課題を共有認識するよう努めています。	日々の支援の中で利用者の意向をくみ取り、家族等は来訪の都度伺っている。訪問の少ない家族には運営推進会議議事録と一緒に、利用者ごとの様子を書いたおたよりを送り、電話で説明している。要望はホーム会議等で共有し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話し合いや提案の機会を設け、職員の意見や提案内容を吟味し、よい提案は会議で周知し、積極的に取り入れ反映させている。	毎月開催のホーム会議は、職員が自由に要望や提案を言える機会を設け、欠席者にも議事録を回覧し、会議の内容や課題を理解させている。理事長は定期的な往診の都度、事務長も来所の際に、職員の意見や要望を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が人事考課の自己評価を行い、管理者の2次査定で各自の目標や業務の責任感とモチベーションを向上させる課題を設定しています。更に、評価実績・課題の達成結果を処遇反映に提言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーションや人事考課(6ヶ月毎)などを参考に、法人内研修を個人毎に奨励している。また外部研修は、受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険事業所とホームの相互見学会や情報交換を通じて、サービスの質を向上させる取り組みに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申込みがあった場合、ご本人の身体状況や生活歴や生活信条等、ご親族からの情報把握と理解に努め、面接を必ず行っている。又、体験入居の活用を進言し、安心してスムーズに入居されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から入居の相談があった場合、ご家族様が、どんなことに困っているか、又、ご要望やご希望等を聴き、サービス導入で具体的な対応を提言することで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご家族様やご本人の状況をお聴きし、早急な支援が必要で、当ホームの利用が困難場合、他のサービスやそのほか居宅介護支援事業所等を紹介し、問題を解決できるような支援・対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は「人生の先輩」として、尊敬の気持ちを全職員が共有し、日々の生活でお互いが協働し、和やかで安定した生活を営めるよう、利用者様一人ひとりに現状で最善の支援をすることを基本に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の想いをご家族様にきめ細かく伝えることで、ご家族と職員の意思疎通を育み、利用者様への支援がよりの確に行えるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や知人に会いに出掛けられる場合や訪問して頂く場合の支援、更に電話や手紙で連絡を取り持つ等の支援や調整等を利用者様の意向を汲んで行うように努めています。	友人の訪問もあり、電話や手紙での支援も行っている。現在のホームは開設3年目だが馴染みの移転前のホーム周辺にも車で10分程で行けるので、利用者の希望に応じて出掛けしている。家族と馴染みの場所に出掛ける方もいて関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係については、総ての情報を職員が共有し、お茶や食事時のお手伝い等、職員が調整役で支援している。入居後に気心が通じ合い親しくなった人間関係を大切に育むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了して、他の施設に入所などされた方でも、担当介護支援専門員と連絡を取ったり、ご家族様からの介護の相談等に応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわり合いの中で、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推し測ったり、確認するようにしている。それが困難な方には、ご家族様から情報を得るようにしている。	日常の会話の中から思いをくみ取り、言葉にできない方もアイコンタクトを大切に、家族からの情報も得ている。入居間もない方は付き添って外を歩いたり、施設の畑での作業を一緒に行ったり、本人の思いに添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に現在までの生活の仕方、利用者様の好みや趣味など聞くように努め、入居後も折に触れ、ご本人やご家族様からの情報や確認を取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムの理解と確認をすると共に、言動や小さな諸動作や慣習から推察し、ご本人の意向や全体像を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ご本人やご家族様の希望を見聞して把握に努め、定期的な職員会議では必要な意見を出し合い、より良い方向性を具体的に反映し、介護計画の作成で取り込むようにしている。	以前のアセスメントを取り寄せたり、家族、職員からの情報を纏めて介護計画を作成している。都度モニタリングを行い、短期目標の期間に合わせて現状に即した介護計画を作成し家族に説明、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間等、日々の様子、食事、水分量、排泄等の身体状況を毎日必ず記録し、いつでも、全ての職員が情報を確認できるようにしている。また、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療と栄養指導は2回/月、訪問看護師と訪問歯科:1回/週、訪問理容:1回/月等を定期に受入れるようにした。他の医療機関への受診なども必要な場合は状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問やボランティアグループの受入れ等を行っている。その他に消防署や警察署にも、当ホームのことを知って頂き、緊急時等、スムーズな協力が得られるようお願ひしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師による定期的な往診と、更に24時間対応して頂いている。又、希望する医療機関で受診出来る様に支援をし、その医療機関から診療の内容や治療方針などの指示を頂くよう連帯している。	法人代表でもある内科医は月2回往診と24時間対応で看護師・訪問歯科は毎週訪問している。定期訪問の薬剤師による服薬支援、管理栄養士の栄養指導も行われ本人・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき等、週1回の訪問看護師に伝え、利用者様がホームの生活や受診、看護等での注意点を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供をしている。又、医師や看護師との連絡を取り、ご本人の病状等の把握に努め、情報交換や相談をするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に経口摂取のできる状態は、介護が重度化した場合でも対応できることをご家族様にお話しているが、様々なケースが考えられ、ご本人の病状や希望、関係機関や関係者の協力体制を活用し、状況の変化に応じて話し合い、支援をしている。	入居時に本人・家族の希望を聞き取り、重度化しても経口摂取ができる状態であれば施設で対応できることを説明している。必要な時には医療関係機関も交え家族と話し合いを重ね納得のいく支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、入職時のオリエンテーションやスタッフ会議で急変や事故の事例報告を学習し、研修・訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災計画は、利用者様も参加して頂き、職員の避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会やご近所に協力をお願いし、運営推進会議を活用して地域のご協力をお願いしています。	年2回の避難訓練は利用者も参加して日中、夜間と行っている。2回の倉庫には水・食糧・オムツ・カセットコンロ等が備蓄され、地域との連携もお願いしている。職員は近隣の方が多く連絡網を作成し緊急時には協力できる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉をかけないよう、常に相互注意を心掛け、目立たず、さり気ない声掛けや対応を全職員が行うよう指導し実践をしている。	ホームの理念である「心の触れ合う、優しい介護」をモットーにプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。誘導時には耳元で声を掛け、選択は利用者の決定を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペース合わせた声掛け、些細なことでも本人が決める場面を生活の場で意識的に作るようにしている。(飲み物、食べたいメニュー、着たい衣類など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重して、できるだけ希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人の生活習慣に合わせた支援を心掛け、行事や外出等でおしゃれを楽しんで貰える様、支援している。理容室や美容院はご本人の希望にあわせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備のテーブル拭き、調理手伝い、片付け等、利用者様と一緒にいき、楽しく食事ができるように、雰囲気づくりも大切にしている。	週2回の食材の買い出しには利用者も同行し、一緒にメニューを決め調理している。庭には畑もあり、夏には色々な夏野菜の収穫も楽しんでいる。ホーム長のこだわりで瀬戸物の食器を使用し、旬の食材を楽しみ食事の時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を介護記録に記載し、食事の内容や食事と水分摂取量の把握に努めている。また、献立や摂取量と体重の増減の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人ひとりの状況に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や習慣を把握し、その時間を参考にトイレ誘導をすることで、排泄を促している。又、排泄チェック表を記録し、自立排泄にむけて活用している。	排泄が自立されている方以外はトイレ誘導や夜間のポータブルトイレの利用を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。誘導時の声掛けはさりげなくする事を心掛け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、便秘を予防できるよう、毎日乳製品の摂取を働きかけ、食事は野菜中心の食物繊維を多く摂取できるよう心掛けている。それでも排便がない場合には、医師の指示により下剤を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程を決めているが、利用者様の希望に応じた入浴の支援も行っている。	入浴は利用者の体調に応じて支援しており、声掛けのタイミングも工夫している。入浴時は一番のリラックスタイムで利用者の本音も聞けるのでゆっくり入れるよう支援している。職員との会話も弾んで楽しい時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に応じ、日々の生活の中で、夜間の睡眠に影響しない範囲で、お昼寝や休息がとれるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬は、薬剤情報ファイルを利用者様毎に表示し、内容を把握するようにしている。内服薬は必ず、ご本人が内服できたかどうかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を活かし、テーブル拭き、洗濯物たたみ、お茶入れ等に張り合いを持ってお手伝いをして頂いています。楽しみ事は、外出や地域行事の参加に利用者様と話し合いで決めるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じて頂いたり、心身の活性化につながる様、散歩や買物に出掛けています。	天気の良い日には近くの貝塚や住宅街を散歩し、それぞれの希望により日用品の買い物や食品の買い出し等には職員と車で出掛けている。外出の出来ない方には施設内で季節が感じられるよう工夫し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら、利用者様一人ひとりの能力や希望に合わせた金銭管理をしている。また、外出時の買物等は、ご自分でお金を支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご友人、知人からの手紙や電話の取り次ぎに利用者様の希望に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、季節感(花壇に咲く季節の花、庭木でさえずる小鳥、菜園で採れた野菜料理等)を感じられ、意識的に関わりや関心を持って頂くよう、工夫しました。	全体が落ち着いた色合いで纏められ、いつでも集え寛げるよう、片付けられている。庭の花々や室内の飾りつけは季節に応じた工夫がされ、南向きのリビングや庭先のベンチは日当たりも良く居心地の良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームのリビングに椅子を配置し、陽だまりで「日向ぼっこ」の雑談、屋外の庭先は、ベンチを設置し、季節を感じながら、歓談するスペースを確保しました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が普段から馴染まれている品物や、好んで使われた物品等を持ち込んで頂き、居心地の良い雰囲気作りの支援と工夫をしました。	各居室のクローゼットには季節の衣類や持ち物が収納され、室内はすっきり片付けられている。使い慣れた品物や大切な仏壇も持参される方もいて、心穏やかに過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、利用者様の名前の表札を付け、トイレにはトイレの表示をして、利用者様の状況に合わせ、安全な環境と自立した生活を取り込めるよう支援しています。		